

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 6年 4月13日
(131号)

中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
古田修平
編集 西村俊幸

「道徳とは何か」その逆説的眞実」 執行 草舟 先生 (三月度特別講義より)



■道徳とはすべて修身

このたびは森信三先生の思想に基づく人間学塾で話ができることを大変名誉に感じています。さて、戦後「道徳」ほど誤解されて

きているものはありません。道徳の難しさは「人に語ってはならない」ところにある。それはすべて修身であり、自分を戒めるところにあつて、道徳を他人に語った途端に説教になるからです。道徳項目は、人間の歴史の中で、結果として良かったことだけを「形」として決めています。生きることに必ず苦しみや涙が伴います。道徳項目とは過去の人のそんな苦しみの中から絞り出されたエキス。それはかつて生き、躍動していた生の中から生まれているのです。道徳は感化しか価値がありません。知的に道徳を理解しようとすると恐ろしいことになる。また自分を道徳的に正しいと思っている人間は最悪です。

道徳とは、口には出さず、自分自身の内部エネルギーとして自己研鑽にのみ使用するものです。自分自身の戒めとするうちに、その人の中に道徳が溜まっていき、それが成長となる。そして、溜まるとともに、生命の苦しみもまた生まれてきます。

カント著『判断力批判』の中には「無目的の合目的」とありますが、道徳が身につくと何ら目的を持たなくても、人間として最も正しい行動がとれるようになる。不徳とは道徳のない状態ですが、道徳が身についていることを「徳」といいます。

■眞の価値は躍動している
誰もが見て美しいもの・素晴らしいものは、

実は死んでいるものと思つてよい。学問も芸術も、死んで、眞の価値は躍動しているためにとらえどころがない。

歴史的に見ると道徳項目が身についたら、ある種生命的には恐ろしい結果を招くこともある。徳を持ったがためにさまざまな酷い目に遭った人がたくさんいるのですが、それでよいのです。徳を身につけても何ら得などしなくてよい。しかしそれでもなお立派な人間を目指し研鑽努力すればよいのです。

戦争を起こす人間は常に正義の士です。正義は良いことだが、歪むと他国を武器で裁くことになる。また、人助けは当然良いことで、ボランティアは報われないからこそ価値がある。報われたならそれは功利的なものとなつてしまう。道徳とは自分の内面にあり、人から褒められるようなものではないのです。

内村鑑三は「現代のキリスト教は道徳に墮した」と著書に書いている。つまり眞の躍動をしていたキリスト教は死に、「人に親切にすること」「ボランティア活動やバザー」等々実行しておれば立派なクリスチャンと人から呼ばれている現状から、人助けさえすればよい、という風潮を内村鑑三は嘆いたのです。キリスト教は道徳の根本。眞のキリスト教とは、「永遠の生命を信じること」であり、「現世を捨てること」。現世の欲望をみな捨てて、永遠の生命に向かつて生きるこそが、キリスト教徒のやることなのだ。この世の欲望ではなく、永遠の生命に向かつていけ、と内村鑑三は説いたのです。

■道徳は破るためにある

道徳の本質である躍動と流動の苦悩から逃れようとすると、安穩や幸福への志向が生じて、価値観の固定化をもたらしします。当然誰しも幸福や安心を願うものですが、そう思うことで反省や苦悩をしなくなる。幸福とは樂をしたところから始まりません。善悪を簡単に決めることから樂な人生となるのです。

スペインの哲学者ウナムーノは『生の悲劇的感情』で「人生とは愛のために一生苦しむか、全部を捨てて、幸福な人生になるか、どっちかしかない」。愛のために苦しみ続けるのが、本当の価値ある人生だと書いています。ウナムーノはさらに「愛を失うのは幸福な人生を送ったとき」とも言っている。少しでも立派な人間になるには苦悩し、考え続けるしかない。善悪を決めてしまった途端教条主義になつてしまう。いまのヒューマニズム的な考えを持つ人は「良い人」には違いないだろうが、それもまた教条主義に落ちると軍国主義になる。ローマの格言に「最善の墮落は最悪である」とありますが、教条主義は価値の膠着化となり、他を罰する思想となつてしまうのです。

最善のものが墮落したとき、最悪のものになる。という一例として、ヒューマニズムがあります。ヒューマニズムとはキリスト教の道徳で、西洋人の作つた素晴らしい考えです。これが作られたときは、キリスト教の信仰が生きており、その時代には、「神」がいた。人は神の前におそれおののいた。しかし今では西洋も欧米も、神は死に、ヒューマニズムだけが一人歩きしています。その結果ヨーロッパでは移民一つ止められない事態に陥つた。最善は墮落してはならないのです。

二十世紀の偉大な画家ピカソの言葉「私の芸術は破壊である」。芸術を築き上げたのではなく、壊したいと言っています。そして誤解を恐れず言うならば「道徳は破るためにある」。躍動の不安と自由の苦悩に生きる覚悟だけが、道徳を眞の価値として活用することができるとです。生身の人間ならば道徳を絶対破ることがあるでしょう。そのときの苦しみを一生涯抱き続けることが、道徳が徳に変化する、生きていく躍動だと言えましょう。

(抄録 中川千都子)

グループ討議

3月 執行 草舟 先生

- ◆ Aグループ
 - ・ 愛というものは相手を愛すること。
 - ・ 絶対善が怖い。
 - ・ 道徳は破るためにある。
- ◆ Bグループ
 - ・ 道徳は人に語らない、自分で示す。
 - ・ 幸福になろうとすると不幸になる。
 - ・ 最善の堕落は最悪である。
- ◆ Cグループ
 - ・ 道徳は感化力。背中を見せる。
 - ・ 道徳は破るためにある。
 - ・ 自分を守ると弱くなる。
- ◆ Dグループ
 - ・ 道徳は、行動で示し、感化力。
 - ・ 最善の堕落は最悪。
 - ・ 道徳は破ること。
 - ・ その苦悩を抱え続け生きていく。
- ◆ Eグループ
 - ・ 道徳は修身、人に語るものでない。
 - ・ 最善の堕落は最悪である。
 - ・ 自分のことをいい人間だと思いうことは、自己満足である。
- ◆ Fグループ
 - ・ 道徳は感化力として意味がある。
 - ・ 道徳を破り苦しみを抱える。



司会 山路 直美 世話人



執行 草舟 先生の気迫あふれたご講演



講師紹介 中川 千都子 代表



グループ討議発表
ありがとうございます



熱気あふれる
会場風景
約140名参加！



執行 草舟 先生 質疑応答より

■幸福とは何か？

幸福とは自分の人生の完全燃焼のこと。その寿命の長い短いは関係ない。
一般的にいう幸福は間違いであり、安穩を求め、エゴイズムでしかない。

■働くこと、仕事の意味は？

仕事を通じて国家・社会・他人のために役に立つことが仕事であり、それが幸福。
その意味で特攻隊（是非はともかく）は、国のために命を捧げることができ、誇りを持てた若者たちは幸せだったと思う。



■ボランティアで気をつけることは？

自分が良いことをしていると思わないこと。そう思うと墮落する。
人間は善ほど怖い。それは傲慢になるからであり、傲慢になると命の燃焼が止まる。



■会社の理念を掲げることは良いか？

理念を掲げなければ経営ではない。
ただし、理念は理想であり、到達不能の憧れ。理想を掲げて到達できないことに苦悩する道程が尊い。到達できるものは単なる「欲」にすぎない。

■道徳を学校や親が教えるにはどうすればよいのか？

教えられない。昔は森信三先生のような徳の身についた人がおり、子どもたちが感化された。自分が徳を身につけ、子どものために命を投げだす以外、何一つできない。

■ヒューマニズムの観点から移民・LGBT等をどう思うか？

ヒューマニズムが度を超えれば国が破壊するのは決まっている。
LGBTに対し個人的に差別はないが、特殊な人々がこの世の中心になってはならない。移民についても、キリスト教文明でできあがったヨーロッパの国々が移民により、キリスト教という言葉も言えなくなった。
日本においては日本人・日本文化が大切だということは当たり前のこと。自分の家族を犠牲にするのが間違いと同様に、全ての国が自分の国を一番大事にし、そういう国々が集まって初めて多様な文化が生まれる。



執行 草舟先生と鏡 日乃様、水谷 一恵様がその後の懇親会にもご参加頂きました。

寺田一清先生に導かれて 近藤宏枝 ⑬

石川真理子先生は、米沢藩士の末裔であるお祖母様に、十二歳まで厳しくしつけられたそうです。森信三先生は「しつけは『つ』のつく年までに」と説かれましたが、まさにその立ち居振る舞いが物語っていると思いました。

私が初めて真理子先生のご講話を拝聴したのは、平成二十八年の「人間学塾・中之島」でした。ご登壇前に舞台に向かって一礼されたお姿の美しさが、深く心に残っています。

それでもその時「立ったままでするお辞儀は、本当のお辞儀ではありません。」ときっぱりと話され、坐ってお辞儀をする機会が日常生活で無くなっていることを、このままでは「礼」を重んじる日本人の美しい姿が消えていくと危惧されていました。また無くなってきたことの一つに「やせ我慢」があると説かれ、やせ我慢とは日本人の文化である「恥を知れ」ということだと教えて下さいました。

更には武士道を生活で活かす方法として「腰骨を立てる」ことを挙げられ、森先生が何より優先すべきと説かれた教えは、先人から脈々と繋がっていると感じました。

さて真理子先生の名著『五月の螢』に、第一号神風特別特攻隊「敷島隊」の隊長として出撃された関行男大尉の事が描かれています。

関大尉は愛媛県西条市のご出身で、お墓は関家の菩提寺・四国中央市村松大師に建立されていて、しかも私の実家のお墓のすぐ傍に在ることが分かり、度々お参りさせて頂いています。私達はこのようにした先人が命を懸けて下さった「賜り生かされている命」を授かっています。いつも「守られて生きている」と感謝して、一日一日を大切に生きることでしょうか、ご恩に報いる方法はないのだと心深くに刻みしました。

《人間学塾・中之島》次月日程

【5月日程】

- 日時 5月11日(土) 13時～
- 場所 大阪大学中之島センター 6階
- 講師 市川英俊先生
- 演題 「立腰と内観」



新島村社会福祉協議会会長

東京都新島生まれ。小学校教員となり、森信三先生と出会う。以後、立腰教育に取り組む。東京読書会を発会。内観道場にて内観も行う。

新島小学校の校長として「立腰教育と内観」を指導される。

読書会開催

5月は読書会を開催します！
各自テキストを忘れずにご持参ください！

テキスト
A班 「一語一会」
B班 「ありがとうございます」

テキストがない場合は、事務局までご連絡をお願いします。
当日販売します。

編集後記

三月は執行草舟先生でした。塾生と聴講生あわせて百四十人程の参加でした。会場は熱気に包まれ、大盛況でした。

執行先生はとても喜ばれていたとのこと。これも皆様の熱い想いが伝わったからだと確信しています。

また、当日、聴講生の方々が来られたため、塾生の方にもお手伝いを頂きました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

真の道徳とは何か。道徳は破るためにある。最善の墮落は最悪。愛とは：自分のことをいい人間だと思っていることは自己満足。そして何よりも「感化力」が大切であると実感しました。皆様がともに様々な場所・立場で団結してまわりにいい感化を実践しているようではありませんか！

編集長 西村俊幸

人間学塾・中之島
編集部メールアドレス

原稿等はこちらにお願いします
事務局とは別です

2012nakanoshima@gmail.com

中之島ニュースは塾生の皆様のためのものです。無断で転載・配布・SNS利用などはご遠慮ください。